

「大分市子育てに関するアンケート調査」の
集計結果について（中間報告）

大分市子ども企画課

調査の実施概要

1. 調査の目的

- ①次期「すくすく大分っ子プラン」策定に向け、幼児教育・保育及び地域の子育て支援サービス等の子ども・子育て支援事業のニーズ量を把握し、提供区域ごとに「量の見込み（需要量）」を設定する。（ニーズ調査）
- ②現行の「すくすく大分っ子プラン」における成果指標の達成状況を把握するとともに、現プランの総括及び次期計画の目標策定等の資料とする。

2. 調査期間

平成30年11月29日（木）～平成30年12月21日（金）

3. 調査方法

郵送による無記名回答方式

4. 調査の対象

	就学前児童の保護者	小学生の保護者	合計
①対象児童数	25,607人	27,292人	52,899人
②調査人数	5,298人	5,504人	10,802人
③回収人数	3,155人	3,173人	6,328人
④回収率	59.6%	57.7%	58.6%
(参考) 前回回収率	55.3%	54.3%	54.8%

※住民基本台帳（平成30年10月1日現在）より、年齢、小学校区ごとに無作為抽出。

5. 今後の集計・分析について

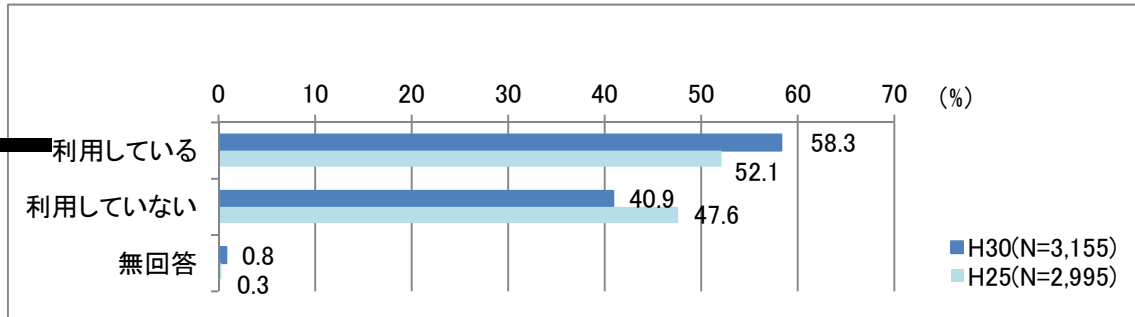
保護者の就労状況や世帯構成、区域などの項目と、施設・事業の利用希望等を組み合わせるクロス集計により、詳細なニーズ分析を行う。

また、分析結果を基に、幼児教育・保育及び地域子育て支援事業の量の見込みを算出するとともに、現行計画に掲げる各指標の評価を行う。

調査結果（抜粋）

《就学前児童》

【問 10】 平日の日中に教育・保育サービスを利用していますか。

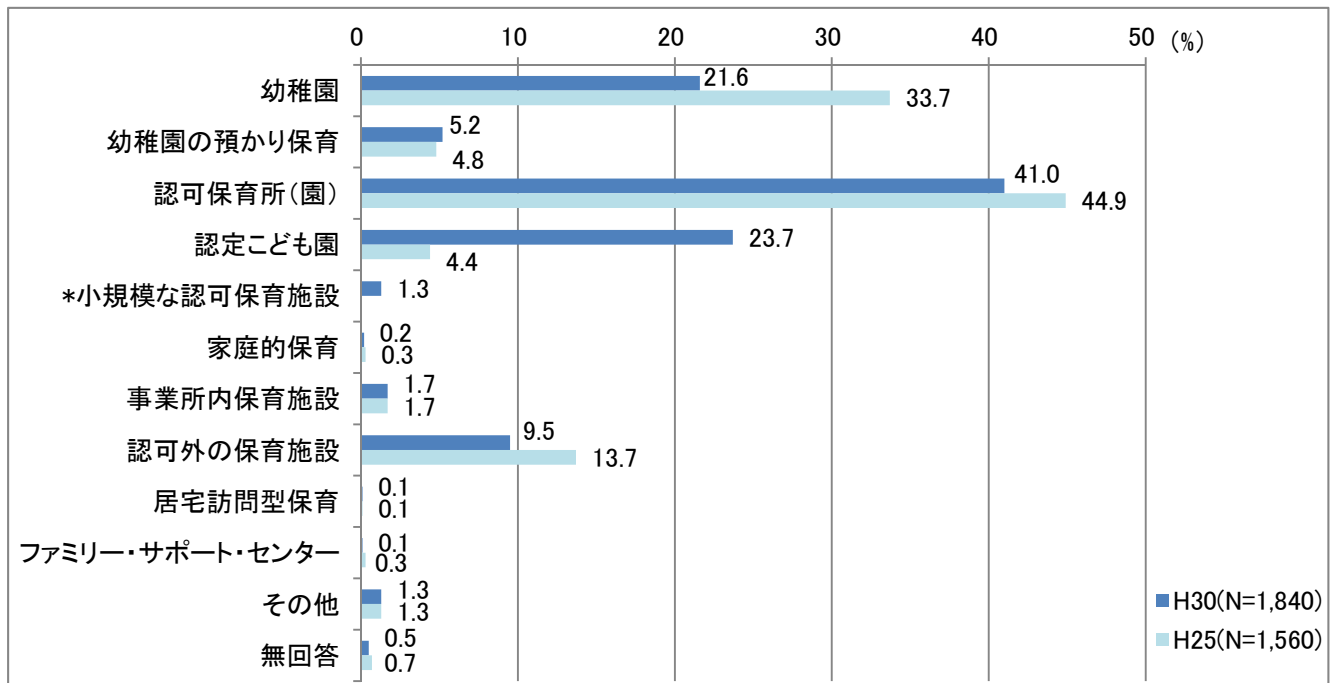


【問 10-4】 平日日中に定期的に教育・保育サービスを利用されている理由についてお答えください（複数回答）。

項目	今回割合 (%)	前回割合 (%)
子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している	73.5	62.2
子どもの教育や発達のため	52.1	57.3
子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である	1.7	2.9
その他	7.0	6.3

【問 10-1】 年間を通じて定期的に利用しているサービスをお答えください（複数回答）。

（注）「*」がついた項目は今回のアンケートで追加したものであるため、前回の割合は無い。



「日中の定期的な教育・保育サービス」の利用は、58.3%で前回より 6.2 ポイント増加している。また、利用しているサービスについては、幼児教育・保育施設が全体で 86.3%と約 3 ポイント上昇しており、施設別では認定こども園が 23.7%と大きく増えている。

【問 10-6】平日日中に定期的に教育・保育サービスを利用していない理由についてお答えください（複数回答）。

項 目	今回割合 (%)	前回割合 (%)
子どもがまだ小さいため	47.1	50.8
（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）利用する必要がない	45.9	49.4
利用したいが、教育・保育サービスに空きがない	12.6	10.8
子どもの祖父母や親戚の人がみている	7.6	6.7
利用したいが、経済的な理由でサービスを利用できない	7.4	13.3
その他	17.6	38.3

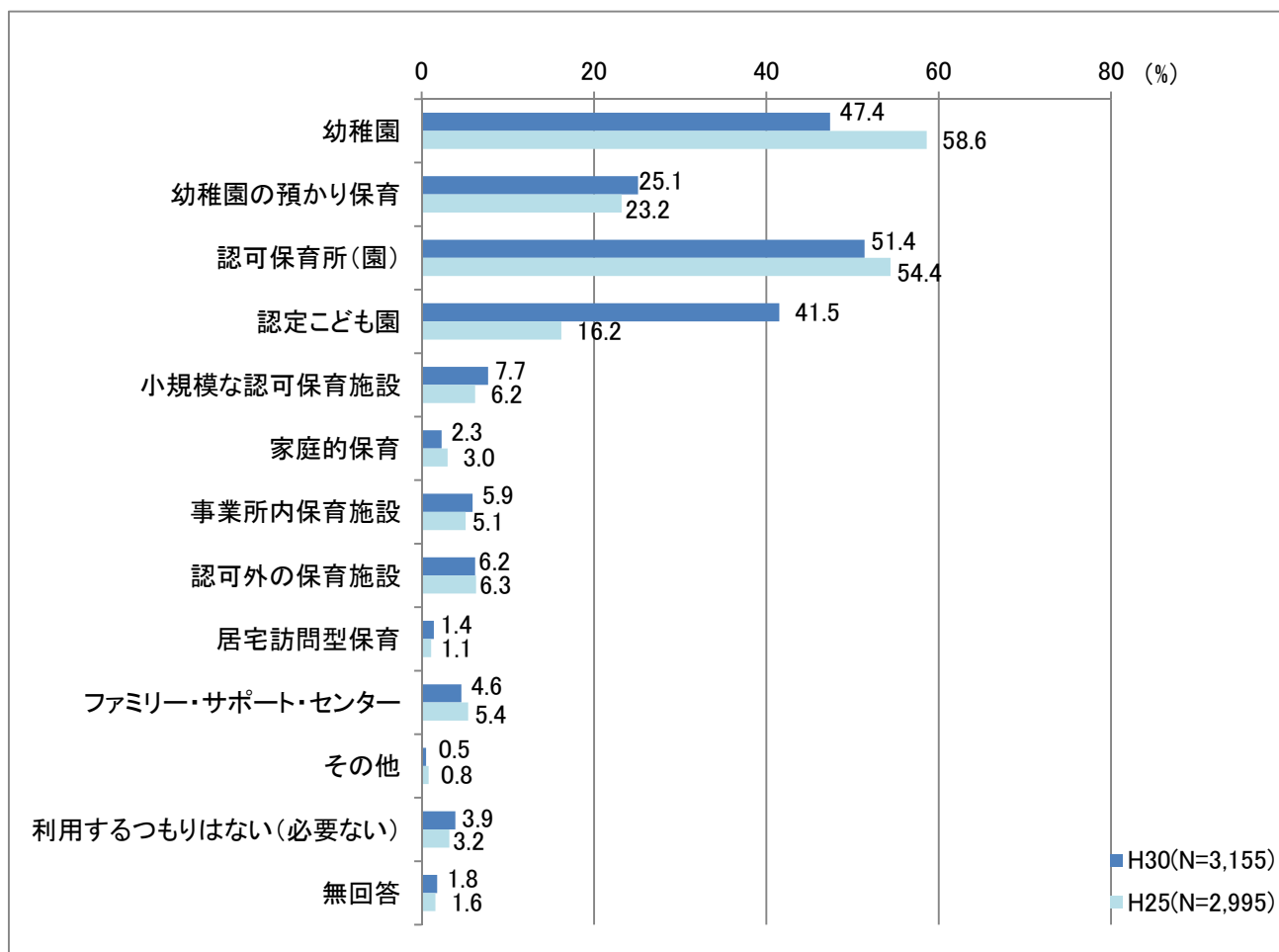
※到達したら預けようと考えている年齢

項 目	今回割合 (%)	前回割合 (%)
1 歳	29.5	19.4
2 歳	10.9	10.3
3 歳	40.2	39.7
4 歳	12.5	21.4
5 歳以上	2.5	5.2

平日日中に定期的に教育・保育サービスを利用していない主な理由として、「子どもがまだ小さいため」が47.1%、「（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）利用する必要がない」が45.9%となっている。

「子供がまだ小さいため」を選んだ保護者に、到達したら預けようと考えている年齢を聞いたところ、「3歳」が最も多かったものの、前回比0.5ポイントと微増に留まっている一方で、「4歳」が8.9ポイント減少し、「1歳」が前回より10.1ポイント増加している。

【問 11】 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育サービスとして、「定期的に」利用したいと考えるサービスを教えてください（複数回答）。



定期的に利用したい教育・保育サービスは、認可保育所が 51.4%と最も多く、次いで幼稚園が 47.4%、認定こども園が 41.5%となっており、現在の利用状況と同様の傾向が見られる。

【問 12】 幼児教育・保育の無償化が実施された場合の利用意向についておたずねします。

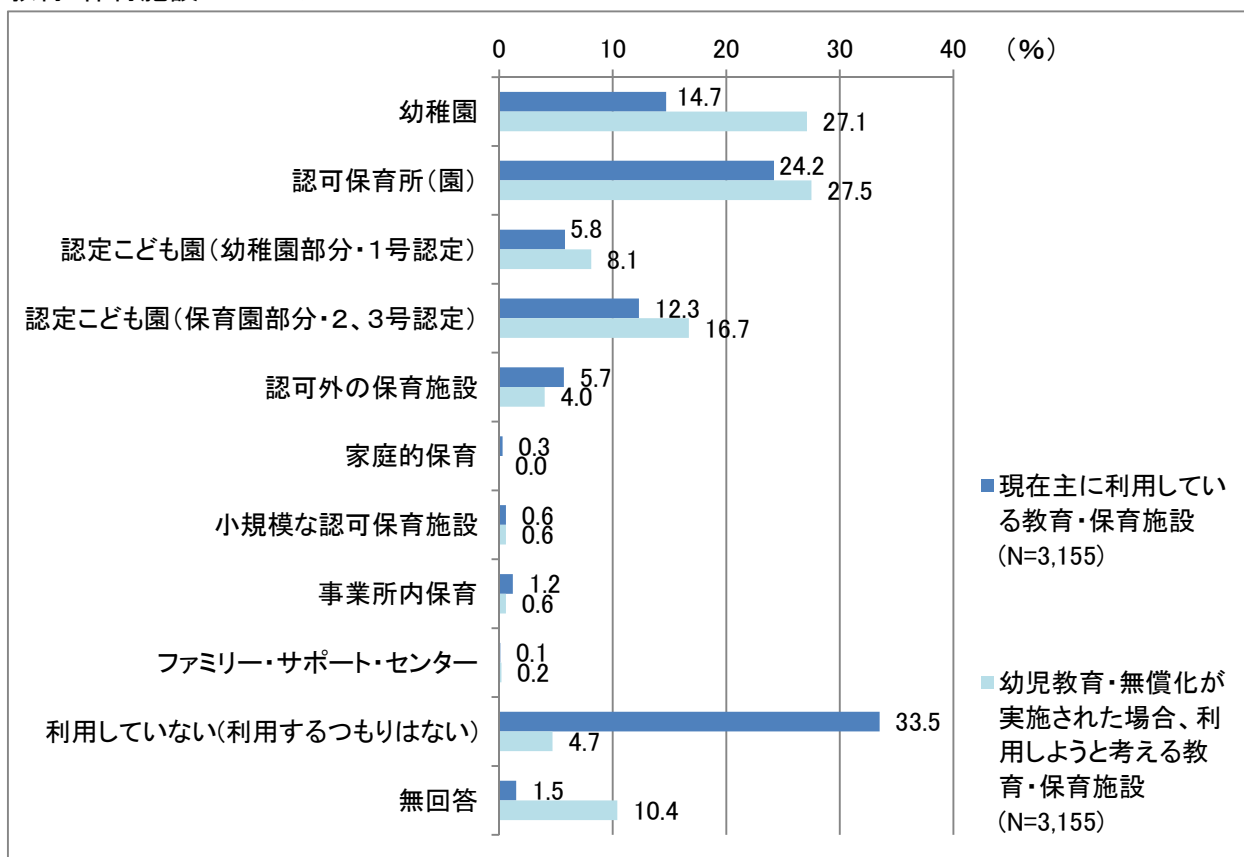
※幼児教育・保育の無償化の概要

実施時期：2019年10月から

対象	無償化の内容
幼稚園、認可保育所（園）、認定こども園、小規模保育事業所等	3～5歳児は全世帯無償化 （幼稚園は、幼稚園保育料の無償化上限25,700円と、預かり保育の利用料の無償化上限11,300円を加えた月額37,000円まで無償化）
	0～2歳児は住民税非課税世帯を対象として無償化
認可外の保育施設等	3～5歳児は月額37,000円を上限に無償化
	0～2歳児は住民税非課税世帯を対象とし、月額42,000円を上限に無償化

※幼稚園の預かり保育や認可外保育サービスの利用料が無償化の対象となるためには、保育の必要性の認定事由に該当することが必要となります。

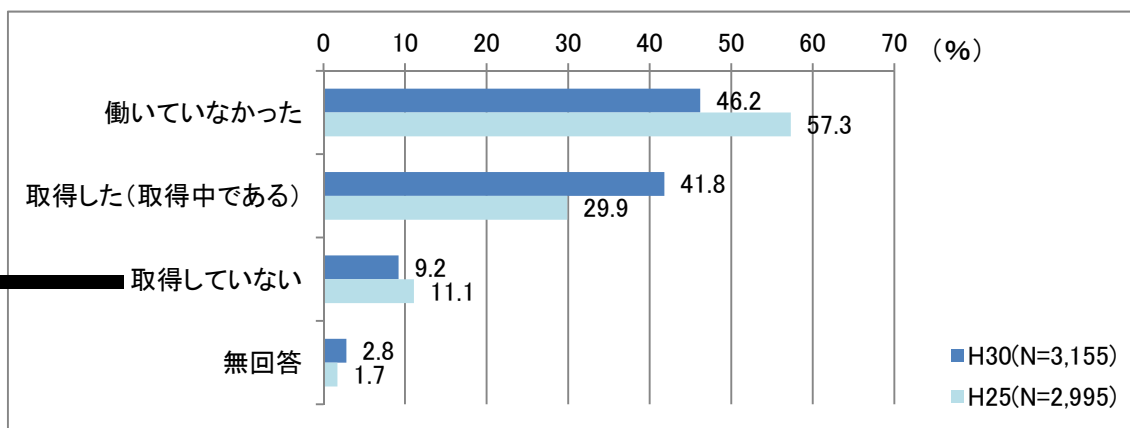
現在、主に利用している教育・保育施設及び無償化が実施された場合、利用しようとする教育・保育施設について



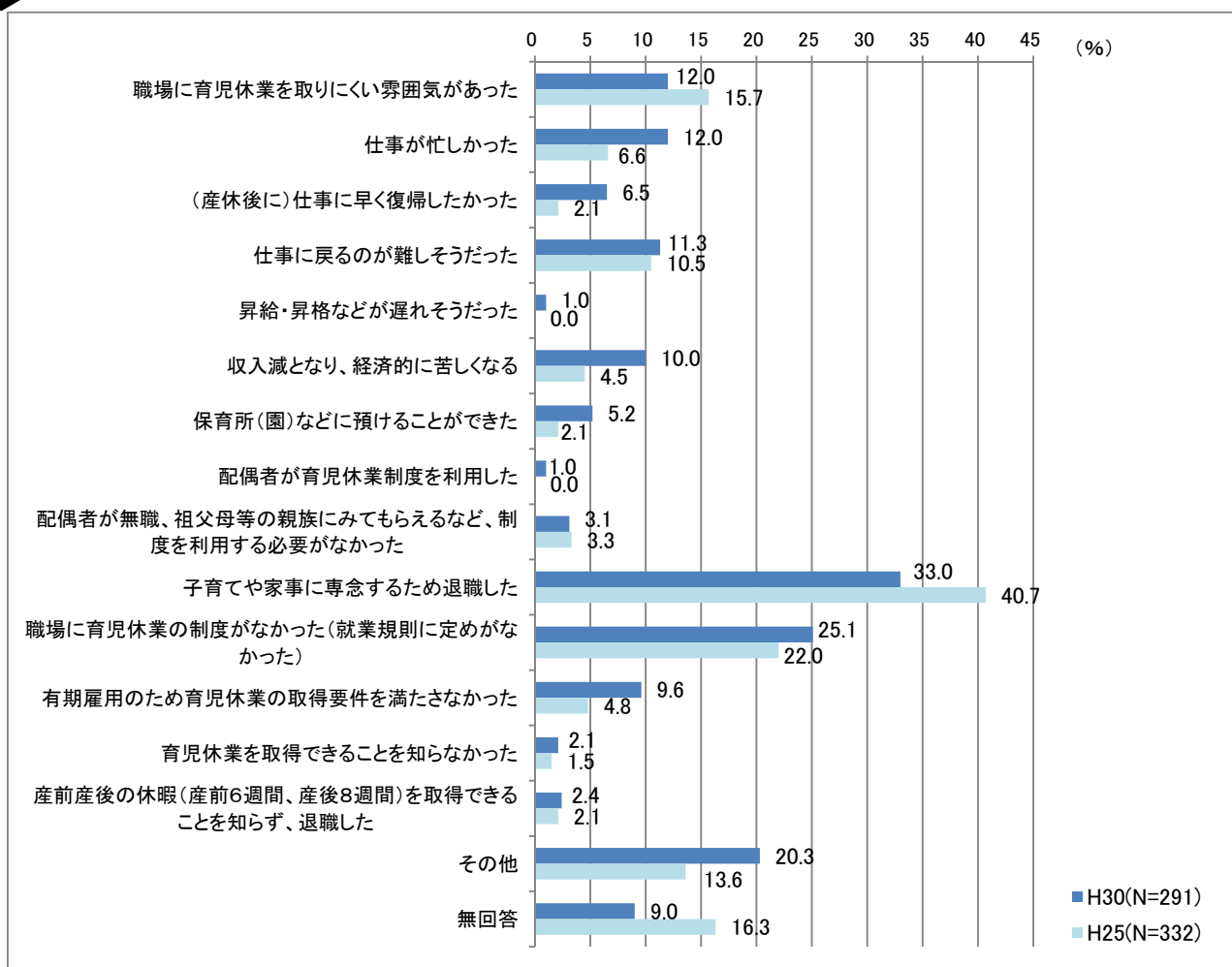
無償化の対象となる現在の「幼稚園」「認可保育所（園）」「認定こども園」など幼児教育・保育施設の現在の利用割合の合計は64.9%だが、無償化が実施された場合の利用希望は84.8%となっている。なかでも保育サービス（認可保育所と認定こども園の2、3号認定等）の利用希望が44.2%と高いが、幼稚園での幼児教育に対するニーズの伸びがみられる。

【問 20】 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

〈母親〉

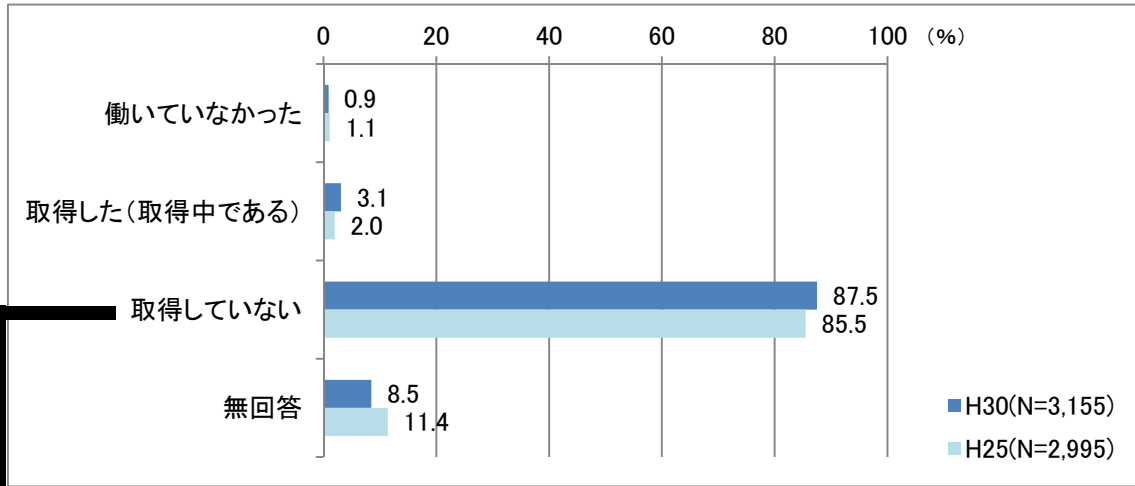


※取得していない理由（複数回答）

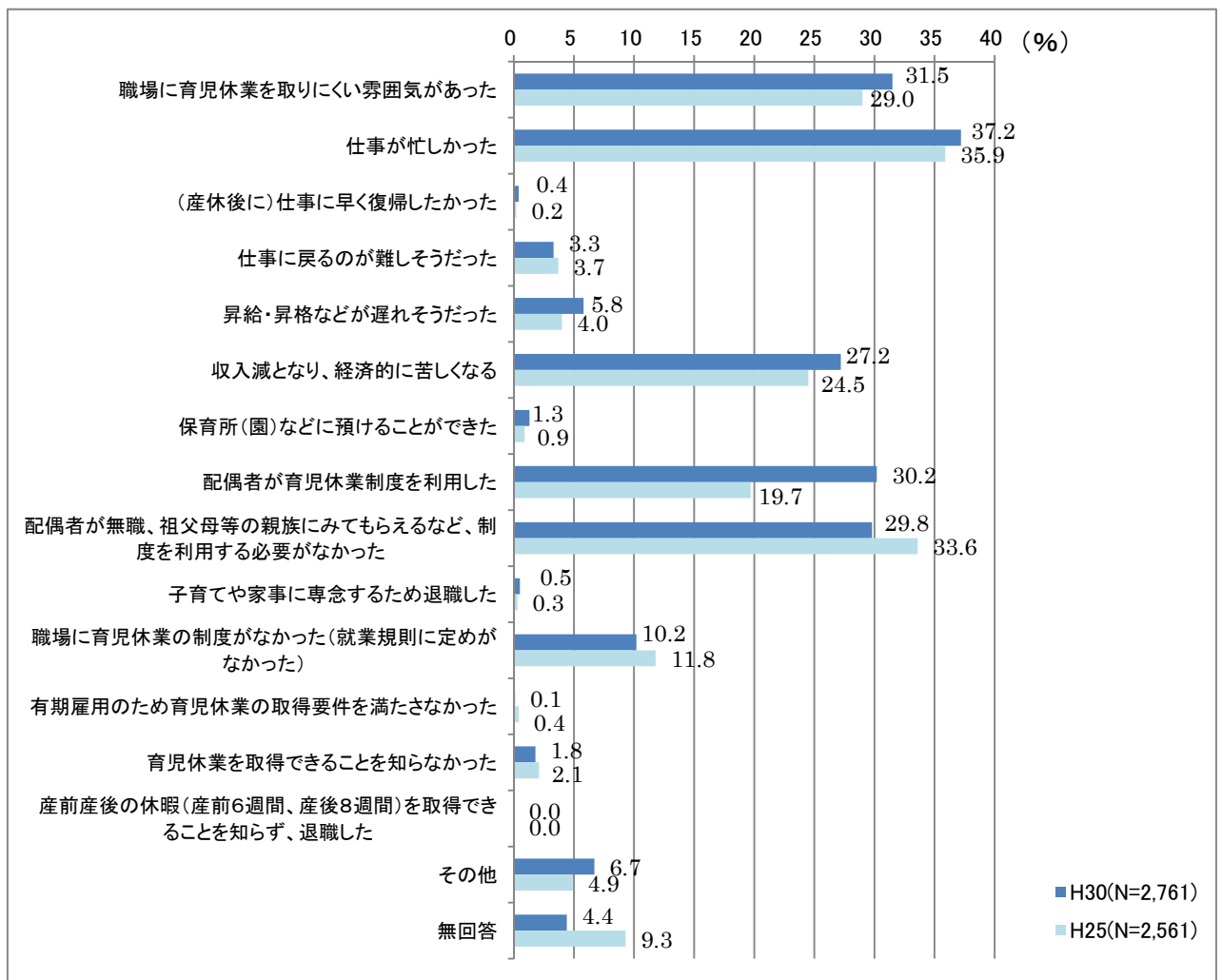


母親が育児休業を取得した割合は前回より 11.9 ポイント上昇している。取得していない主な理由としては「子育てや家事に専念するため退職した」「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」などとなっている。なお、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」や「保育所(園)などに預けることができた」等の項目で前回より割合が減少している。一方、「仕事が忙しかった」や「収入減となり、経済的に苦しくなる」等を理由に取得しない人が増加している。

〈父親〉



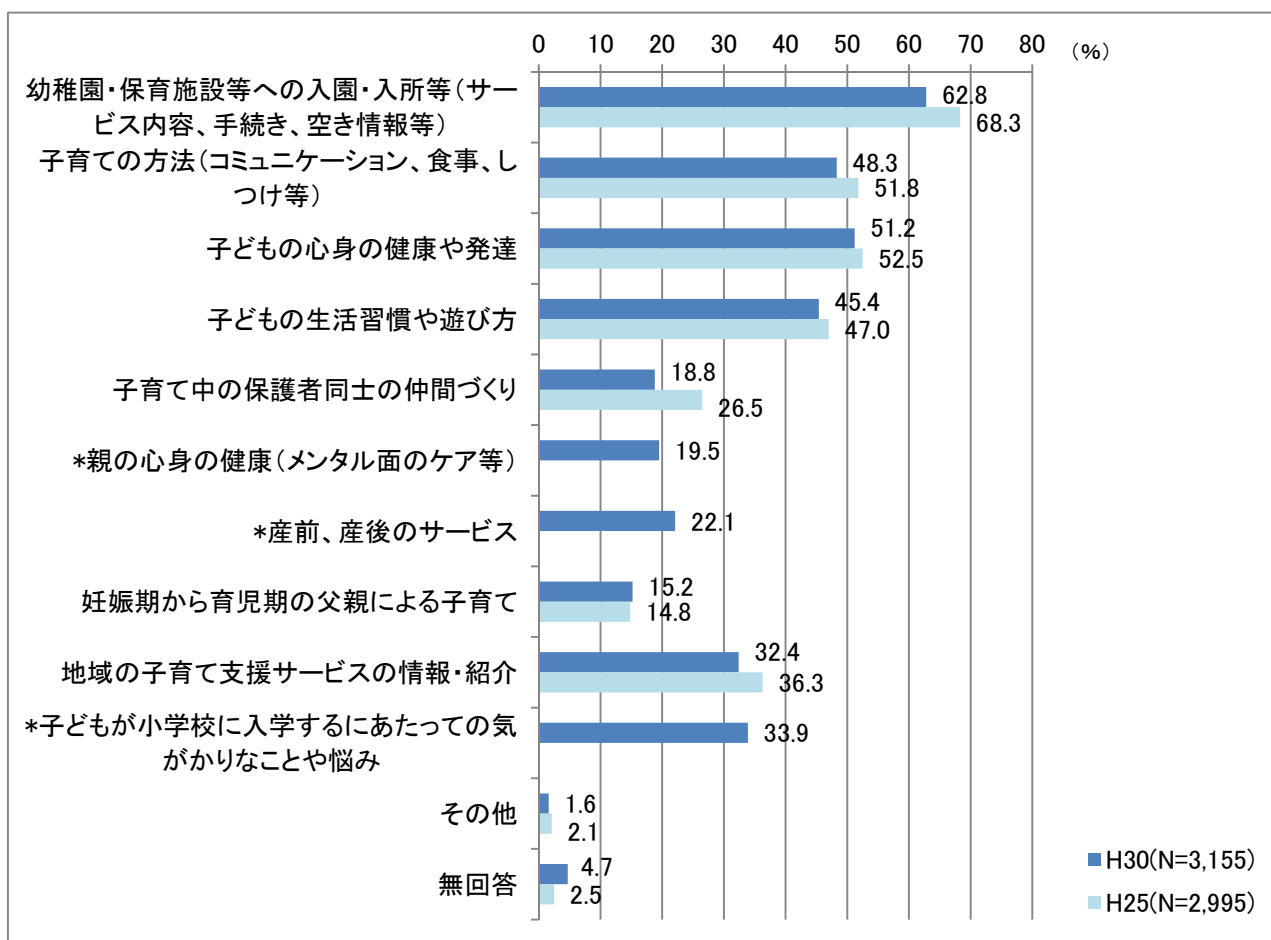
※取得していない理由 (複数回答)



父親の育児休業の取得状況は1.1ポイント上昇したものの、依然低調である。取得していない主な理由は「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「配偶者が育児休業制度を利用した」などとなっており、いずれも割合が上昇している。

【問 31】 小学校就学前のお子さんの子育てに関して、どのような情報提供や相談・支援を受けたいと思いますか。（複数回答）

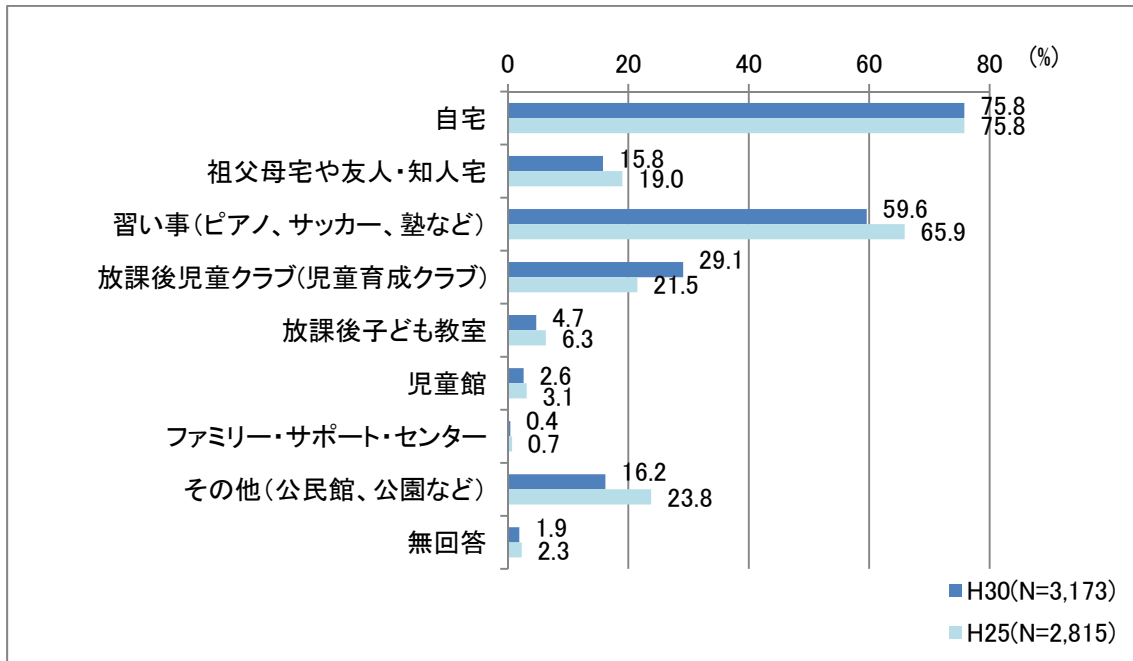
（注）「*」がついた項目は今回のアンケートで追加したものであるため、前回の割合は無い。



「幼稚園・保育施設等への入園・入所等（サービス内容、手続き、空き情報等）」が 62.8%で最も多く、次いで「子どもの心身の健康や発達」が 51.2%、「子育ての方法（コミュニケーション、食事、しつけ等）」が 48.3%となっている。

《小学生》

【問 11】 現在、利用している、利用していないにかかわらず、放課後（平日の小学校下校後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか（複数回答）。



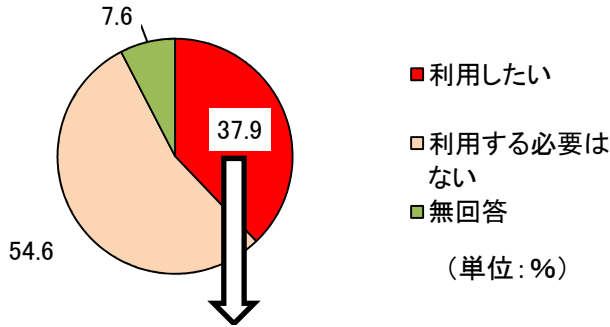
小学校就学後に放課後の時間を過ごさせたい場所は、「自宅」が75.8%で最も多く、次いで「習い事」59.6%、「放課後児童クラブ（児童育成クラブ）」29.1%となっている。

このうち、児童育成クラブの利用希望が唯一伸びており7.6ポイント増えている。保育所や幼稚園の利用に引き続き、入学後の放課後の生活の場として児童育成クラブに対するニーズの高まりがうかがえる。

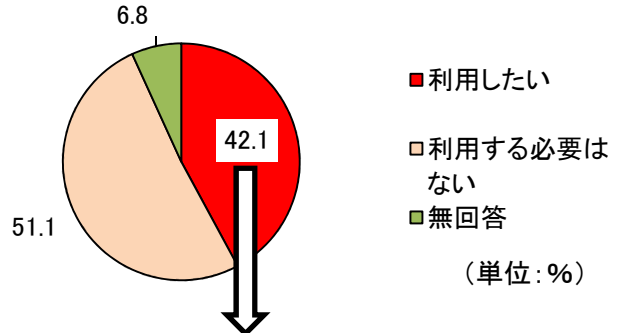
【問 11-1】土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか（問 11 で放課後児童クラブ（児童育成クラブ）を利用している又はしたいと回答した人のみ）

（土曜日）

H30(N=922)



H25(N=605)



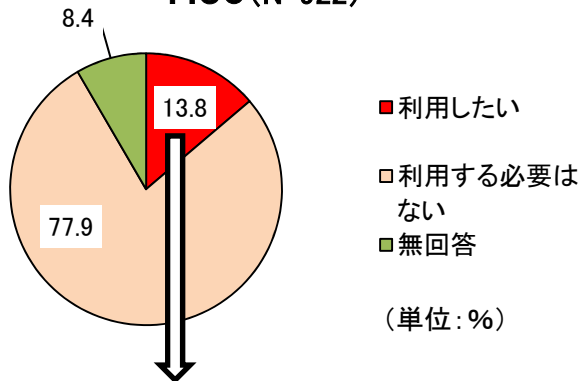
内訳	割合
低学年（1～3年生）の間は利用したい	62.8%
高学年（4～6年生）になっても利用したい	37.2%

内訳	割合
低学年（1～3年生）の間は利用したい	53.7%
高学年（4～6年生）になっても利用したい	46.3%

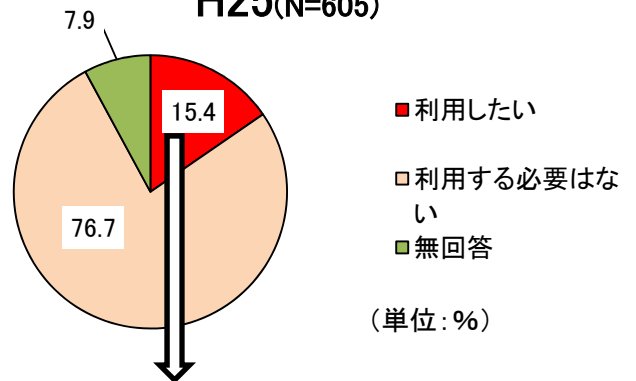
土曜日の利用希望については 37.9%となっている。このうち 37.2%が高学年（4～6年生）までの利用を希望している。

（日曜・祝日）

H30(N=922)



H25(N=605)

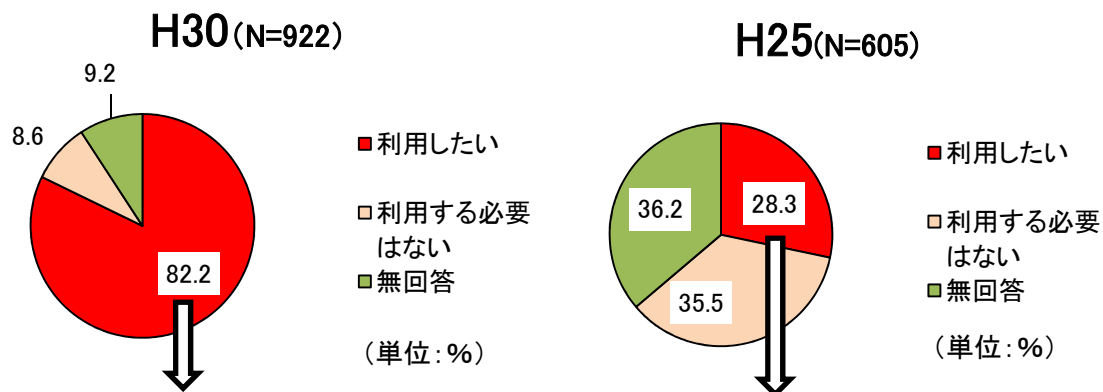


内訳	割合
低学年（1～3年生）の間は利用したい	52.0%
高学年（4～6年生）になっても利用したい	48.0%

内訳	割合
低学年（1～3年生）の間は利用したい	43.0%
高学年（4～6年生）になっても利用したい	57.0%

日曜・祝日の利用希望については 13.8%となっている。このうち 48.0%が高学年（4～6年生）までの利用を希望している。

【問 11-2】夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。

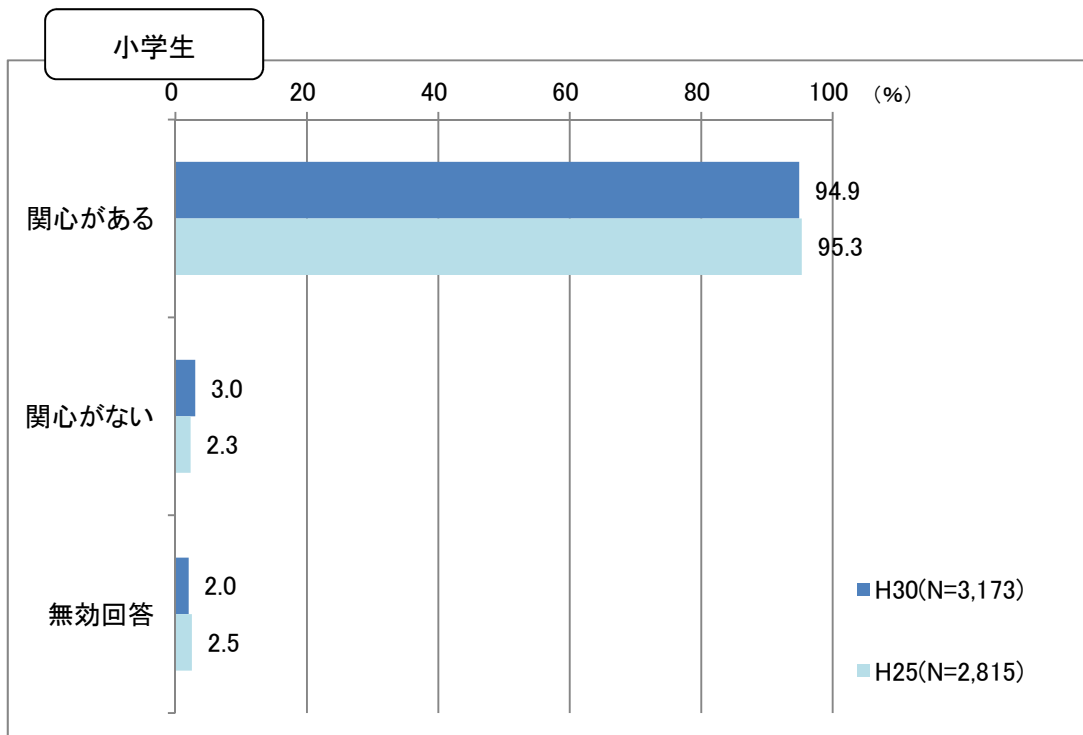
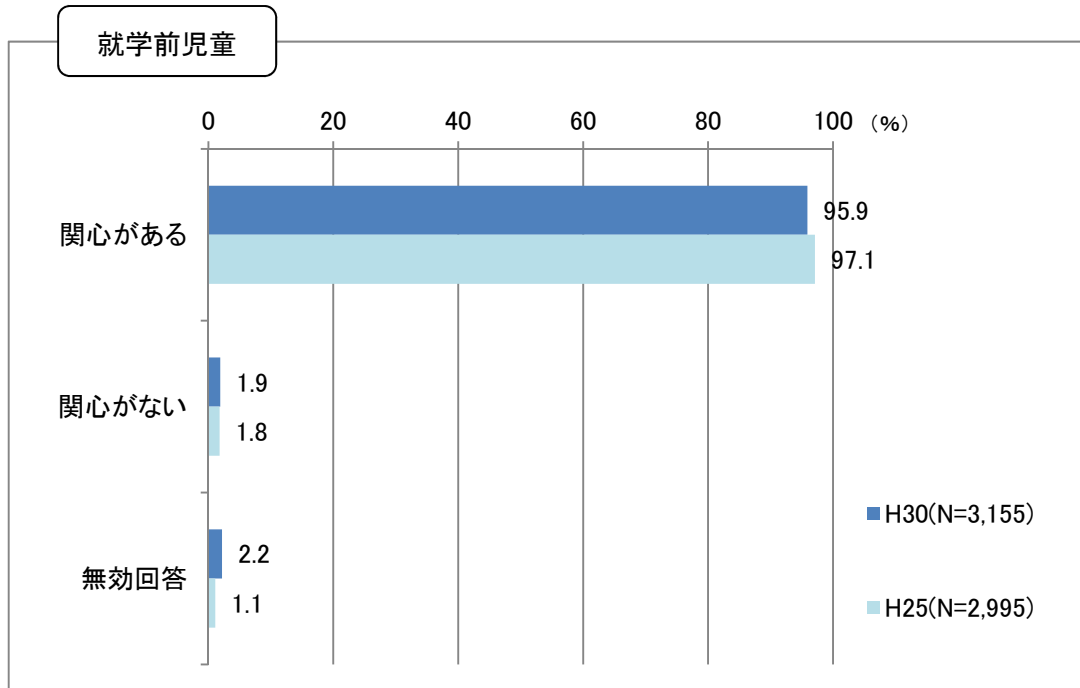


内訳	割合	内訳	割合
低学年（1～3年生）の間は利用したい	51.1%	低学年（1～3年生）の間は利用したい	43.5%
高学年（4～6年生）になっても利用したい	48.9%	高学年（4～6年生）になっても利用したい	56.5%

長期の休暇期間中の利用希望については82.2%が利用を希望しており、前回よりも大きく伸びている。

《共通》

【就学前児童 問 43、小学生 問 25】近年、子どもの虐待が社会問題となってきたほか、子どもが犯罪に巻き込まれるケースも見受けられますが、こうした子どもの人権問題について関心がありますか。



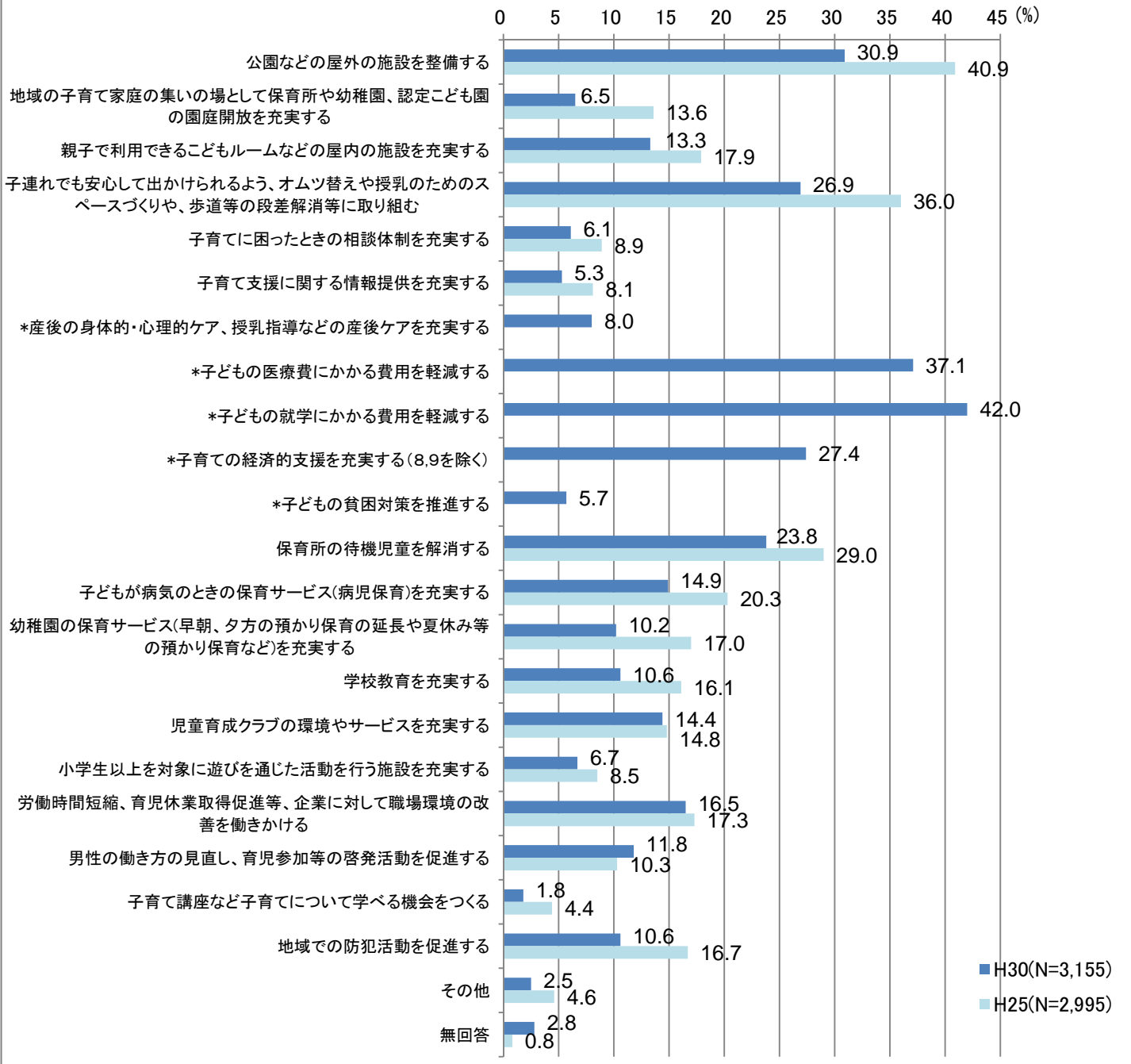
子どもの人権問題については、就学前児童の保護者では 95.9%、小学生の保護者では 94.9%が「関心がある」と回答しており、意識の高さが伺える。

なお、本市の就学前児童の児童虐待の相談対応件数は平成 29 年度が 310 件（平成 25 年度 376 件）、小学生では平成 29 年度が 213 件（平成 25 年度 212 件）となっている。

【就学前児童 問 46、小学生 問 26】大分市に対して、どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待していますか（複数回答）。

（注）「*」がついた項目は今回のアンケートで追加したものであるため、前回の割合は無い。

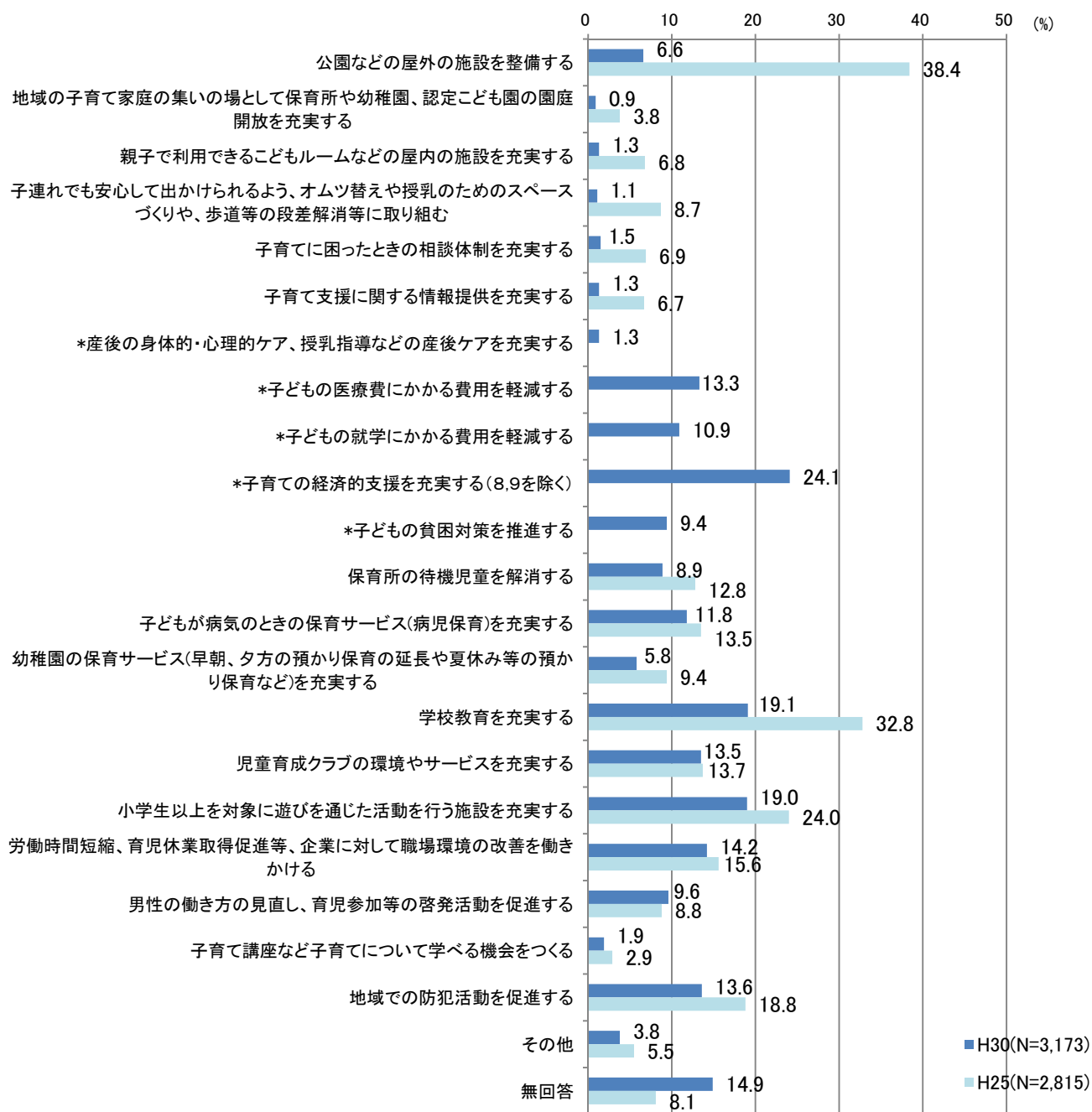
就学前児童



就学前児童では「子どもの就学にかかる費用を軽減する」「子どもの医療費にかかる費用を軽減する」など、子育てに係る費用の助成を求めるものが多いほか、「公園などの屋外の施設を整備する」など、親子で安心して出かけられる環境整備に対するニーズが高い。また、男性の働き方の見直しや育児参加に対する啓発についてのニーズは増加している。

(注)「*」がついた項目は今回のアンケートで追加したものであるため、前回の割合は無い。

小学生



小学生では、「子育ての経済的支援を充実する」や医療費への助成など、子育てに係る費用の助成を求めるものが多いほか、「学校教育を充実する」「小学生以上を対象に遊びを通じた活動を行う施設を充実する」などの割合が高い。また、就学前児童同様、男性の働き方の見直しや育児参加に対する啓発についてのニーズは増加している。